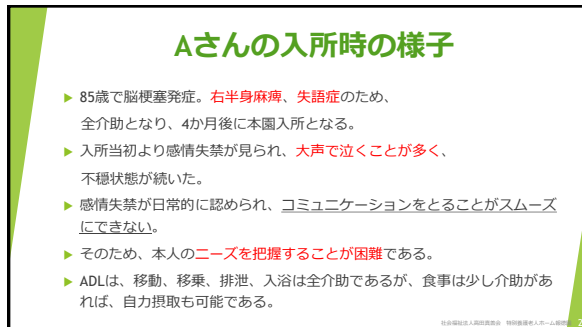
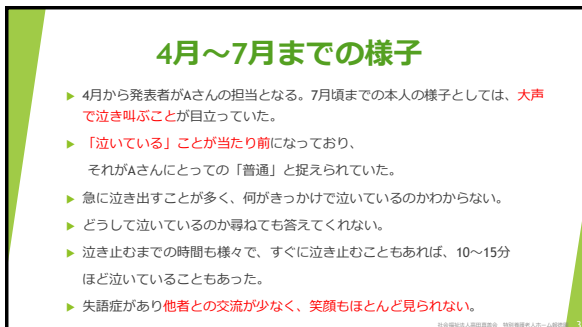




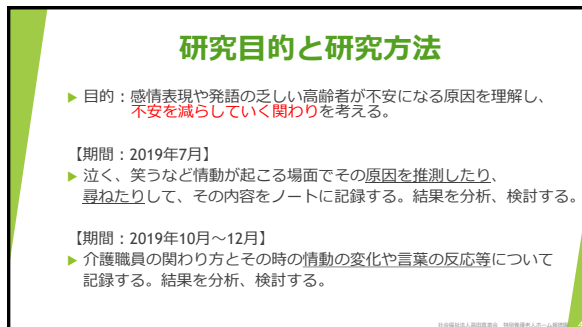
1



2



3



4

表1-1. 情動が起こる状況① (2019年7月)

No	月日	時間	状況	表情
1		10:00	離床介助時、自分でオムツを外していることについて話をすると	泣きそうになる
2	7月18日	14:00	「オムツ交換しましょうか」と声をかける	にっこり笑う
3		15:00	車椅子を介助して、居室から広場へ移動する	声を上げて泣く
4		16:00	広場で職員が隣に座って話しかける	2～3分大声で泣いた後、5分程不安な表情になる
5	7月19日	8:20	広場で朝食後声をかける「どこか痛い?」「食べ過ぎたの?」と声をかけると	不安な表情で泣きそうになる
6			返事はしないが、泣きそうな表情は治まる	
7		6:00	離床介助をする	2～3分声を出して泣く
8			居室で、オムツを交換しようとする	「あー」と泣いている
9	7月20日	14:50	「泣かなくて」「どうしたの?」と聞く	「置いてかれた」と言う
10			「大丈夫」と説明する	「うん」とうなずく

5

表1-2. 情動が起こる状況② (2019年7月)

No	月日	時間	状況	表情
11		15:10	広場で車椅子に座っている	不穏な声を出す
12			一緒に本を読む	落ち着く
13	7月20日	20:00	オムツ交換後、「さっぱりしたね。ゆっくり休んで」と声をかける	にっこり笑う
14			「明日の朝ご飯おいしいはずだよ」と声をかける	「ほんまにね」と言う
15		6:45	広場で隣に座って「看護師の仕事は大変ですね」等の話をすると	2～3分顔をくしゃくしゃにして泣く
16	7月22日	15:00	離床後廊下で広場への移動介助を待っている	5分程声を出して泣く
17			広場で車椅子に座っている	急に泣き顔になる
18			「どうしたの?」「お腹が痛い?」と聞く	泣き続ける
19	7月24日	15:20	「お尻が痛い?」と聞く	うなずく
20			車椅子の姿勢を調整する	泣き止む
21	7月25日	15:00	左手で名前を書いた時「利き手じゃないのに上手」と褒める	素敵な笑顔になる

6

表2 情動とその状況の分類

情動	状況	№
泣く	職員が話しかける	1 4 5 15 18
	状況の変化	3 7 8
	孤独	11 16 17
泣き止む	職員が問いかける（気持ちの一致）	6 9 19
	安心	10 12 20
笑う	職員が話しかける（気持ちの一致）	2 13 14
	職員が話しかける（褒める）	21

7

表3-1. 職員との関わりと情動 (2019年10月)

№	月日	時間	職員との関わり状況	反応
40	10月9日	8:30	上の服を左手に巻き付けているので声をかける	「大塚の親戚が」「農協で温泉」「豪華をもらった」と、小さい声だが、普通の表情で話す
41		11:50	園長が話しかける	泣き顔でしゃべるが、聞き取れない
42	10月13日	14:00	家族が新しい靴を持ってきたので「良かったですね」と声をかける	申し訳なさそうな表情で何か話すが、聞き取れない
44			オムツ交換後ベッドで泣くので、「どうして泣くの？」と尋ねる	泣き止まない
45	10月14日	15:00	「取が痛いの」と尋ねる	泣きながらうなずく
46			「痛かくして休んだら治るかも」と話しかける	泣き止んで落ちつく
47	10月18日	6:30	朝の挨拶時「べっぴんさんやな」と言う	うなずいて笑う
			繰り返し同様に声をかける	その顔で笑う
48	10月21日	18:00	ベッドで「おやすみ」と声をかける	「おやすみ」と言う
49	10月24日	16:00	手すりを使って車椅子で移動中、園長が声をかける	泣きながら答える
50			食事介助後「ごちそうさまでした」と声をかける	「どうも」と言って微笑む
51	10月27日	8:30	友人の看護師の話をする	「そう」「困ったね」と相づちを打つ
52			「どこの部署が大変だった」と尋ねる	目を上に向けて考える表情になる
53			「色々な所で経験した方が勉強になる？」と尋ねる	大きくうなずく

8

表3-2. 職員との関わりと情動 (2019年11~12月)

№	月日	時間	職員との関わり状況	反応
55	11月4日	11:20	「お服すいたの？食べられることは幸せやね」と声をかける	泣きそうな顔をする
56	11月5日	17:00	夕食時に「他の人の良い見本になって」と声をかけると、前の席の看護師が食べ残すを真似ようとする	同じような表情をする
57	11月6日	6:30	「おはよう」と声をかける	「おはよう」と答える
58			「昨夜はよく眠れましたか」と声をかける	「うん」と穏やかな表情で、はっきり言う
63	11月11日	15:45	車椅子でおむつか（一を外そうとしたので、声のトーンと表情に変化をつけて声をかける	いつもは泣くが泣かずに止める
64	11月13日	9:00	オムツ交換時声をかける	ニコニコ笑う
65			「ありがとう」と声をかける	声を出す
66	11月15日	16:00	みんなで体操をする	職員をしつと見て、時々笑う
67			職員が対一で対応して体操をする	まねをして、口を動かしたり深呼吸をして、満足そうに笑う
68	11月25日	18:00	コップのお茶を混ぜながら、全量介助する	満足そうな表情をする
69		20:00	オムツ交換後、「おやすみ」と声をかける	口の動きを見て、語尾の「ミ」を発声する
70			前食時、食室で泣き出したので、「どこか痛いのか」と尋ねる	口をエプロンで当てて泣き止まない
71	12月10日	8:00	テーブルの前の人が定期的な内容の語り言を喋っていたので、嫌な思いがして泣いているのかと考えて居室に戻って食事介助をする	泣き止み、落ちついて朝食を食べる

9

表4. Aさんの変化

	取り組み前	取り組み後
泣く頻度	泣くことが当たり前	減少
泣く様子	ただ大声で泣く	職員の顔を見て訴えかけるよう泣く
泣く以外の感情	ほとんど見られない	意思を示す行動や怒りや拒否、不快という感情が出る
笑顔	ほとんど見られない	笑顔が出せる
発語	ほとんどない	声小さく聞き取りにくいと話すが気分が良いと「ありがとう」と言う

10

介護職員の変化

- ▶ Aさんの変化やプラスになることを見つけ出そうと話し合い、**対応を模索する**ようになった。
- ▶ Aさんが泣いていたり、不安そうな表情が見られたら、そばに寄り添い、「どうしたのか」「何をしたいのか」「Aさんが安心できる対応は何かの？」を**考えて行動**することが増えた。
- ▶ Aさんが泣いているかどうかを問わず、少しでも時間があれば、Aさんの隣に座り、話をしたり、作業をするなど**一緒に過ごす時間が増えた**。

11

まとめ

- ▶ 多くの介護職員がAさんに対し、以前よりも注目し、関わりを多く持つようになっただけでも、泣くことが少なくなった。
- ▶ 「話しかけても泣くだけだ」という**先入観をなくしていく**ことで、Aさんに対する介護職員の苦手意識が減った。
- ▶ 少しでも穏やかな表情で過ごしてもらいたいという思いから、介護職員が**チームとして対応**を考えた。
- ▶ 取り組みの結果として、Aさんには**できることがたくさんあり、褒めたり、Aさんに関わりのある話題で会話をすると、とても良い表情になる**ことが分かった。

12